第 1 回日本学術振興会賞受賞について（本学教員 3 名が受賞）

優れた研究を進めている 45 歳未満の若手研究者を見い出し、早い段階から顕彰してその研究意欲を高め、独創的、先駆的な研究を支援することにより、我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させることを目的として、（独）日本学術振興会が今年度から創設した日本学術振興会賞を、本学の教員 3 名が受賞しました。

同賞の対象分野は人文・社会科学系、理工系及び生物系の 3 分野で、被推薦者数は 279 名、受賞者数は 25 名でした。同賞の審査委員には、江崎玲於奈元本学学長（審査委員長）、小柴昌俊東京大学名誉教授、野依良治理化学研究所理事長の 3 名のノーベル賞学者や、数学のノーベル賞といわれる「フィールズ賞」受賞者の広中平祐数理科学振興会理事長が加わっており、高い権威を持つ公的な賞であり、45 歳までの業績と今後の将来性の両面で評価・審査の上、受賞者が選定されました。なお、授賞式は 3 月 22 日（火）に日本学士院で行われる予定です。

本学における受賞者及び受賞の対象となった研究業績（研究課題）は次のとおりです。

〔人文・社会科学系〕

人文社会科学研究科　竹谷　悦子(ﾀｹﾀﾆ ｴﾂｺ)助教授「アメリカ女性作家の植民地主義的言説の分析によるアメリカ研究」

〔理工系〕

数理物質科学研究科　青木　慎也(ｱｵｷ ｼﾝﾔ)教授「格子ゲージ理論の手法による素粒子物理学の研究」

〔生物系〕

生命環境科学研究科　小林　達彦(ｺﾊﾞﾔｼ ﾐﾁﾋｺ)教授「ニトリル化合物代謝の分子機構と物質生産利用に関する研究」